

発刊に当たって



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期されたことに伴い、大会に先立ち行われる聖火リレーも、当初の計画から1年後のスタートとなりました。

千葉県内では、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない中、残念ではありましたが、オリンピック、パラリンピックとも、聖火ランナーの走行を取り止め、無観客での点火セレモニーの実施となりました。

オリンピック聖火リレーでは、神奈川県から引き継いだ聖火を7月1日から7月3日までの3日間に、県内3会場で237人の聖火ランナーによりつなぎ、茨城県に送り出しました。また、パラリンピック聖火リレーでは、8月18日に、県内全54市町村によってそれぞれが工夫した方法により起こされた火を集めて「千葉県の火」として1つにまとめ、130人の聖火ランナーによりつなぎ、開催都市の東京都へ送り出しました。

それぞれの聖火を無事に引き継ぐことができたのは、聖火ランナーの皆様、各地域で準備や運営に携わった皆様の御理解・御協力によるものであり、心から感謝申し上げます。

聖火リレーは、当初描いていた形での実施とはなりませんでしたが、点火セレモニーでは、トーチに灯された炎に、県内の各地域にゆかりのある聖火ランナーの皆様がそれぞれの思いを込められ、両大会の開会式へとつながっていきました。

今回の聖火リレー、そしてオリンピック・パラリンピックは、これまで経験したことのない困難な道筋を歩んで実現しました。その過程で、私たちは多くの思い、経験、教訓を得ることができました。これをいかに、聖火をつなぐように今後につなげていくかということが重要です。

県としましては、聖火リレーや、東京2020大会を通して積み重ねてきた財産を次世代にしっかりと伝え、本県の持続的な発展につなげられるよう、スポーツと文化の振興や、共生社会の実現を県民の皆様と共に進めていきたいと考えています。

結びに、この記録誌が、千葉県内で実施された東京2020聖火リレーや聖火ランナーの方々の思いなどを後世に伝える貴重な記録・資料として、さまざまな場面で広く活用されますよう祈念しまして、発刊の御挨拶といたします。

千葉県知事

熊谷 俊人

発刊に寄せて



それぞれの思いを胸に聖火がつながれた東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーの感動も新たに、ここに記録誌が発刊されますことに、心よりお喜び申し上げます。

本県では、オリンピック開幕まで3週間余りとなった、2021年7月1日から7月3日までの3日間、山武市、千葉市、松戸市の3カ所で「オリンピック聖火リレー 点火セレモニー」が実施されました。ギリシャから到着した火は、「Hope Lights Our Way(希望の道をつなごう。)」をコンセプトに、地域の方の熱い応援の中、県内を回る予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら会場で聖火ランナーによるトーチキスが行われる形となりました。

また、パラリンピック開幕の直前となる8月18日には、「パラリンピック聖火リレー 千葉県聖火フェスティバル」が実施されました。「Share Your Light(あなたは、きっと、誰かの光だ。)」をコンセプトに、全市町村によりそれぞれ独自の方法で採火された火は、市原スポレクパークに集められ「千葉県の火」となりました。そして、千葉ポートタワー前広場において聖火ランナーによるトーチキスでつながれ、開催都市である東京都へ送り出されました。

新型コロナウイルスの感染拡大による1年間の延期や公道での走行中止を余儀なくされるなど、想定とは異なる形での開催となりましたが、年齢や障害の有無などにかかわらず、様々な分野で御活躍されている聖火ランナーの皆様が思いを込めてつないだ聖火は、希望の光となり、その思いとともに未来へと受け継がれるものと信じております。

県議会といたしましても、県民の皆様が長い準備の段階からつないできた思いを大切に、より一層のスポーツ振興に努めるとともに、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会の実現に全力で取り組んでまいります。

結びに、聖火リレーの実施に御尽力いただきました、東京2020組織委員会の皆様、市町村の皆様、その他すべての関係者の皆様に感謝の意を表するとともに、本県スポーツの益々の発展と、皆様方の御健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

千葉県議会議長

山野 直人